



# 地上と宇宙を融合した 災害情報高度利用システム の開発

国立大学法人 和歌山大学  
システム工学部/災害科学教育研究センター  
江種 伸之 (えぐさ のぶゆき)



紀伊半島では、南海トラフ地震が今世紀前半に発生すると言われるほか、集中豪雨が近年多発しており、防災・減災に関するニーズが極めて高くなっています。

和歌山大学では、本学がこれまで得意としてきたソフト防災(防災教育や防災計画)に加え、理工学系の防災工学や災害情報学の分野を充実させることで、災害情報を集め・伝える技術の開発から利活用までを総合展開する研究プロジェクトを開始しました。



現在は，“災害情報の高度利用”と“防災力を活かした地域振興”をキーワードに，地上と宇宙を融合した災害情報利活用システムの開発，災害情報の高度利用による地域防災力の向上(すぐに避難できる文化の熟成等)，及び防災力を活かした地域振興に関する研究を進めています。

今回は開発中の“地上と宇宙を融合した災害情報高度利用システム：(1)センシング技術，(2)情報通信技術，(3)災害地理情報”の概要を紹介します。

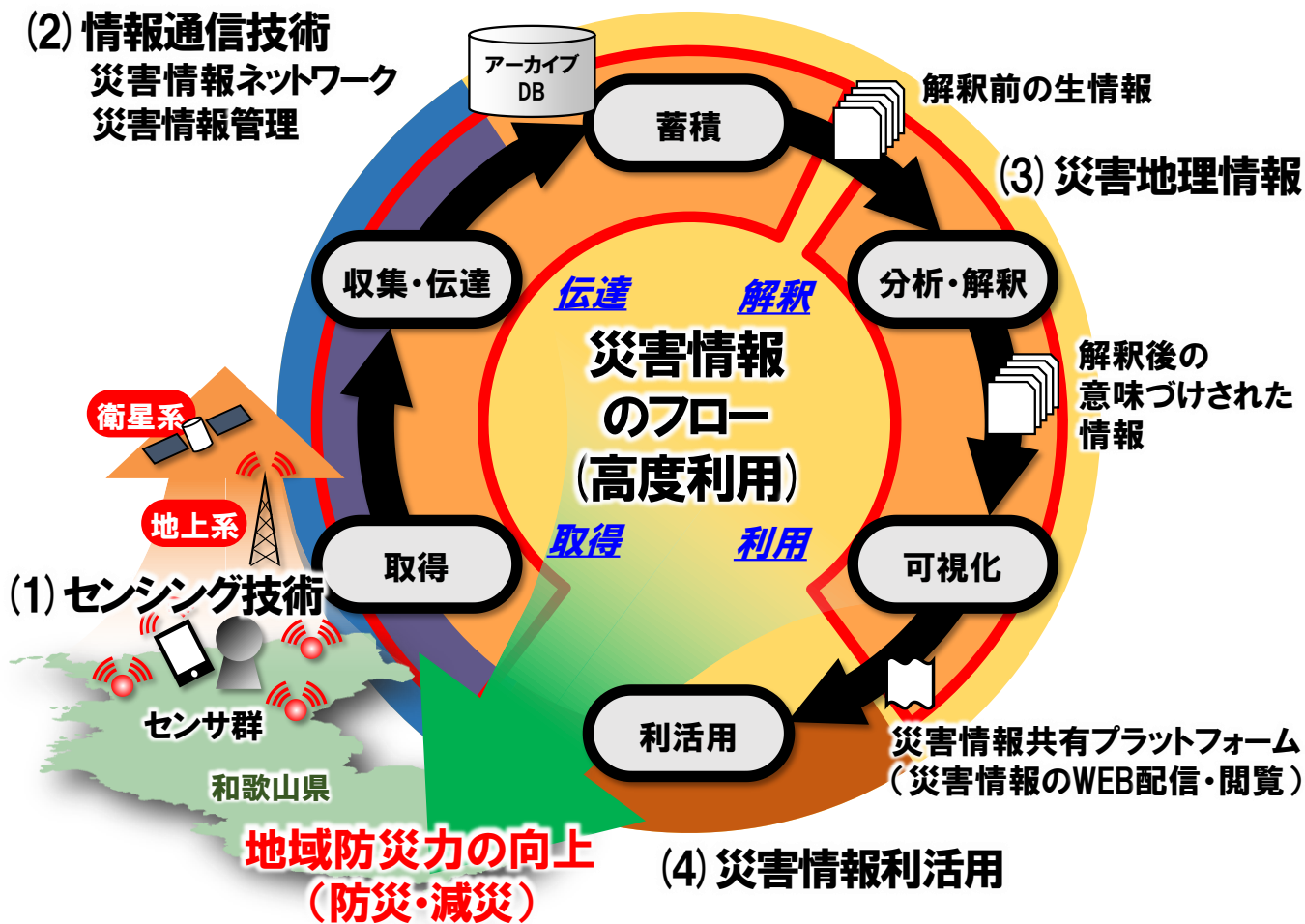


図-1 災害情報高度利用のイメージ図



お問い合わせ先

和歌山大学 産学連携・研究支援センター  
産学官連携コーディネーター

TEL 073-457-7564

FAX 073-457-7550

e-mail: [liaison@center.wakayama-u.ac.jp](mailto:liaison@center.wakayama-u.ac.jp)